



副園長 奥村 綾

～年中行事～

幼稚園では、季節感や日本の文化について学ぶ年中行事を大切にしています。子ども達にとって年中行事は大きな楽しみであり、さまざまな年中行事の意味や由来などを知り、楽しい思い出を通して豊かな感性や情緒を育んでいきます。

～七夕～

☆たなばたさま☆ ～あらすじ～

たくさんある星の中で大きな星は星の王様。その王様のたったひとりのかわいい娘である織姫はとてもきれいな星でした。はたおりの仕事をする織姫と牛飼いの彦星が出会い、仲良くなった二人は、お話をしたり、遊んだり、お遊戯をしたり、全く仕事をしなくなりました。そんな様子を見ていた王様は、遊んでばかりいるふたりを見てたいそうお怒りになり、織姫と彦星は東と西に離れ離れにされてしまいました。

王様は一生懸命仕事をしながらも、毎日毎日寂しそうにしている二人をかわいそうに思われて、「これから先、一年に一度、七月の七日に会ってもよろしい。この日だけはふたりとも仕事を忘れて遊びなさい。」と許してくれました。

こうして織姫と彦星は七月七日だけ、天の川にかかったかささぎの橋を渡り、会う事ができるようになりました。

先日、園庭を舞台に先生達による『たなばたさま』の劇を、園児全員で観ました。

劇が始まると、園庭や保育室前の廊下、2階のバルコニーにいた子ども達は、「シーン・・・。」と静まり返り、織姫(神崎先生)や彦星(花村先生)の演技に見入っていました。牛さん(向田先生)や、みずがめ座(角先生)やほつき星(平野先生)の演技を観て嬉しそうにしている子もいました。

お怒りになった迫力ある王様(齊藤先生)が登場した時には、あまりの怖さに泣きだす年少児もいましたが、最後まで集中して観ていました。劇が終わり、「織姫と彦星離れ離れにされてたなー」と内容を理解している子や「笹飾りに牛作ろ！」と牛に興味をもっている子もいましたよ。年少児は、「難しかったなー」という感想の子もいました。

その日以降、各クラスから♪ささのはさ～らさら～♪という歌声が聴こえたり、笹飾りを作ったりして、七夕を楽しみにしている姿が見られます。

①②③

七夕の劇が始まってすぐに私のところに駆け寄り「怖い」と言って抱き着いてきた年中女児がいました。さくら組前で抱っこをしながら2人で観ていると、もう一人横に来て手を握ってくる年中女児が、、、。楽しい劇のはずなのになぜかなと思っていたのですが、なんとこの2人は、年少の時に観た劇の内容を覚えていて、「王様が怖いー」と、王様登場前から本気で怖がっていたのです。1年前に観た王様がよほど印象的だったんですね。ちなみに1年前も王様は齊藤先生です。子どもの記憶力ってすごい！

5日、幼稚園に大きな笹と小さな笹がたくさん届きます。保育室では、色々な飾りを作り、短冊に願い事を書いたりして準備中です。笹が届いたら「飾りをつけたい」「空に向かって願い事をしたい」「笹に向かってお祈りをしたい」等と言っている子ども達もいますので、当日子ども達からどんな案が出て、どのような七夕の日に発展するか今から楽しみです。

## ☆たなばたに笹(竹笹)を飾るのはなぜ??

竹は冬の寒さにも負けず、真っ直ぐ育つ生命力が備わっていることから、昔から神聖な力が宿っていると信じられており、あらゆる神事に使われていました。

### ☆笹飾りの意味☆

短冊…字が上手になるようにとの願いを込めて、文字で願い事を書いて飾ります。

提灯…織姫と彦星に灯りをささげるための飾りです。

野菜…食べ物に困らないようにと願って、すいかやきゅうりなどの野菜の形を飾ります。

網 …魚がたくさん獲れますようにと願って網を飾ります。

ひし形つなぎ…裁縫が上手になるように願って飾ります。

また、例年この時期(コロナ以前)は、盆踊りや夜店等の『お祭り遊び』等も盛り上がるのですが、ここ2年はコロナ禍で、地域の盆踊りや夜店等が中止となり、実際に『夏祭り』を経験したことがない子ども達ばかりです。それでも、しろ組の一人の男児が「お祭りをしたい」と発案し、年長の各クラス数名ずつが集まり、プロジェクトチームを作って話し合いが始まっています。話し合いでは、『祭り』のイメージがなかなか膨らまず、話が広がっていかない状況ですが、ようやく、年長さんが屋台をして、年中・年少さんに来てもらうところまで決まったようです。お祭りの様子は、次号の育ちの芽でお伝えします。

先日みどり組の園児数名とこんなやり取りをしました。

園児「スーパーボールを買いに100均に行ってきたもいいですか？」

奥村「100均はどこにあるの？」

園児「商店街!」「そこって右曲がったとこ!」と指をさして教えてくれました。

奥村「なんでスーパーボールがいるの？」

園児「みんなでお祭りするねん」

奥村「お金はあるの？」

園児 にこっと笑って「ここにあるでー」とお金の入った財布を嬉しそうに見せてくれました。

奥村「子ども達だけでは行けないね」

園児「松尾先生も行くでー」

奥村「行ってきてもいいけど、今は、お店に入るのにマスクしてないとはいれないかもよ」

園児「入り口で聞いわ」と言って、

松尾先生と、みどり組の園児6名で「行ってきまーす」と出かけていきました。

後から聞くと、入り口で、「なあなあ～松尾先生、マスクなしでいいか聞いてきてーや」と言って、手で口を押さえながら子ども達は外で待っていて、OKが出てから店内に入ったそうです。

帰ってきた時も「行ってきたよ」と報告に来てくれました。

園児「スーパーボールは売ってなくて、コーナンの前のところに売ってるねんてー行ってきていい？」

園児「ライフっていうとこやで」

奥村「少し遠いところだし、時間的にも今日は無理かもね」

園児「わかったーまたみんなに聞いてからにするわ」

これはほんの一例ですが、このようなやり取りを通して、思ったことや考えたことを発言したり、行動に移したりして、自分達で計画したことを実行できるようにしています。

今後もこのような活動を通して、友達と情報共有する力、企画する力など『非認知能力』とともに『認知的能力』も育んでいきたいと思えます。

### クラス運営費

様々な活動を発展させたり、共同的に学んだりする『プロジェクト型保育』を展開するため、自由に使える『クラス運営費』を、母の会費より計上していただいています。使い道は、クラスによって様々です。